

新聞報道等でもご存じのとおり、ミャンマーからバングラデシュに移入した避難民は、2017年8月25日以降その数が626,000人にのぼり、それ以前に移入していた方（212,000人）を含めると、838,000人を超えています（国連調査、12月3日現在）。

日本赤十字社はキャンプにおける医療支援を行うため、9月16日に先遣隊5名をバングラデシュに派遣し、その後第1班（9月22日～10月26日）、第2班（10月20日～11月30日）を継続して派遣、現在第3班が11月24日から活動し、診療した避難民の数はすでに1万5千人に近づいています。これまでに当院からは、医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、事務職など計12名の職員が派遣されています。

今回は先遣隊の事務管理及びロジスティクス要員として派遣され、その後引き続いて第1班、第2班の管理部門のリーダーとして2ヶ月半バングラデシュで活動しました。その内容を以下に紹介します。

（注）国際赤十字では、政治的・民族背景および避難されている方々の多様性に配慮し「ロヒンギャ」という表現を使用しないこととしています。

1. 先遣隊ロジスティクス要員として

私たちが海外で医療支援活動を行うためには資機材と医薬品が必要です。資機材は医療資機材と非医療資機材（テント、発電機、給水関係、通信機器、生活用品など）で構成され、重さは約19トンあります。また、医薬品は1トンにおよびます。資機材は日本とドバイに1セットずつ保管されており、今回はドバイから飛行機を1機チャーターしてバングラデシュまで運びました。また、医薬品についてはオランダの製薬会社に発注し、同じく空輸でバングラデシュに入れました。

言うは易しですが、混乱した現地の中、これらの資機材と医薬品を円滑に輸入し、それらを目的地まで安全に輸送することは簡単ではなく、これが先遣隊ロジスティクス要員の役割になります。私はバングラデシュに到着後、すぐに物流を担当する現地の赤十字関係者や物流会社と面会し、輸入通関などの手続き、インフラ環境（空港、倉庫、道路）、キャンプ地の状況などの情報収集を行いました。これらを基に輸送の段取りを調整していきましたが、首都のダッカ、資機材到着地のチッタゴン、活動場所のコックスバザールを陸路や空路を駆使して動き回る日々は体力勝負でもありました。その後、全ての調査と準備が完了し、第1班が活動場所に到着するタイミングに合わせて無事に資機材が到着し、日赤の医療活動が開始されました。

2. 管理部門リーダーとして（危機管理）

国際緊急救援のチームは医療スタッフ（医師、看護師、薬剤師など）と管理部門ス

スタッフ（管理要員、技術要員）で構成されています。管理部門スタッフの役割は、チームが円滑に医療活動を行えるようにチーム全体をサポートすることです。そのため、業務は多岐に渡り、管理要員は通信環境整備、車両管理、活動費管理、地元スタッフの雇用と管理、宿泊手配など行います。また技術要員は資機材（テント、発電機、浄水機など）の設営、維持管理を行います。これらの業務全体を統括し、さらにチームリーダーと共に安全面の管理を行うのが管理部門リーダーの役割です。

安全管理に関する業務について一つ紹介をします。今回私たちが活動している場所は避難民キャンプ地と呼ばれる場所です。キャンプ地は複数点在しており、数万人から数十万人の避難民の方々が生活をされています。避難民の方々は温厚であり、またキャンプ地はバングラデシュ軍に管理されていますので、活動場所周辺は秩序が保たれています。とはいえ、長期間の避難生活による心身の疲労のためか、キャンプ地内では避難民どうしによる口論や喧嘩が発生します。また、避難民の方々が生活するテントは密集しており、料理などで使用する火によって火災が発生する可能性もあります。

このような環境下で活動を続けるチームの安全管理として、私たちは緊急事態に備えた避難計画書を作成しています。計画書には緊急時の集合場所や持参品、連絡先などが明記されています。さらに、今回はキャンプ地内活動場所からキャンプ地出入口までの緊急時避難経路も掲載しています。この避難経路は、実際に歩いて状況を確認したうえで選定しており、あらゆる事態に対応でき、なおかつ安全に出入口まで到着できる経路を複数設けています。実際に活動中に避難が必要と判断される事案が発生した際は、この計画書に沿ってチームは無事に集合場所まで移動することができました。このように、私たちは常日頃から緊急時に対する事前の備えと発生時の対応を意識しながら活動を行っています。

いつも赤十字の人道支援にご協力いただきありがとうございます。

バングラデシュでは、住む場所、安全な飲み水、トイレ等衛生環境、食糧、医療、人の暮らしに必要なものすべてが不足しています。加えて、この混乱や避難の中で大切な家族を失った方も多く、こころのケアの必要性が高まっています。

一人でも多くの方を救うために、引き続き皆さまのご支援をお願い申し上げます。



チャーター機到着



チャーター機から降ろす



チャーター機で輸送された資機材



このようなケージが数十個



赤十字ボランティアと資機材の確認



チッタゴンの倉庫に一旦保管



地元運送業者と折衝



キャンプ地内の輸送は人力で



キャンプ地内の調査 河合管理要員、
喜田チームリーダー（右）



キャンプ地に向かう避難民の列